

「はむらの道徳科授業指針」教師の視点③

発問構成を工夫する

道徳の時間の発問には、「**中心発問**」と「**基本発問**」、「**自分を見つめさせる発問**」があります。「中心発問」は、当該の道徳の時間のねらいを達成する上で最も重要な発問のことです。「基本発問」は「中心発問」を生かすために行う発問です。授業の後段では教材を離れ、「自分を見つめさせる発問」を行います。

授業の前段と後段の違いは、教材を基に考えるか、教材から離れて自分を見つめるかにあります。子どもは前段で教材を使って道徳的価値を追究します。後段では教材から離れ、これまでの自分自身を見つめ直すとともに、これからどのように生きていくかについて、発達段階に即して考えをまとめます。

道徳の時間では、前段の学びに終始してしまい、後段に十分時間をとれないことがありがちです。前段の発問は極力精査し、後段の学びの時間を確保することが肝要です。



心をまるめる

福聚山 慈眼寺住職 大峯千日回峰行大行満大阿闍梨 塩沼 亮潤

おにぎりは、はじめから丸いわけではありません。自分で丸めていくからだんだんと丸くなってきます。自分の心もそうです。とがった部分を自分自身で丸めていくことによって、だんだんと丸くなっていくのです。

出典：「寄りそう心」 塩沼亮潤著（プレスアート）

※ 齢を重ねるごとに大らかになる先達がいっぱいいます。「器」が広がっているのでしょう。